

■第1章■ さまざまな書式（フォント）

入門1では文字の色や大きさの変更について勉強しましたが、基礎1ではその他の書式の変更の仕方について勉強しましょう。

STEP 1. 文書を用意しましょう

新しい文書を開き次のように文書を作成しましょう。
フォントサイズ：16

「	」
カレンダー↵	
子供が文房具屋にカレンダーを買いに来まして。↵	
文房具屋「坊や、どんなカレンダーがいいのかな。」↵	
子供「うん、なるべく休日が多いやつ。」↵	
↵	
悪の十字架↵	
ある早朝一人の老婆が、まだ降りているデパートのシャッターに向かって、あたかも、そのデパートに恨みでもあるかのごとく、叫んだ。↵	
老婆「開くの十時か。」↵	

カレンダー

子供が文房具屋にカレンダーを買いに来まして。

文房具屋「坊や、どんなカレンダーがいいのかな。」

子供「うん、なるべく休日が多いやつ。」

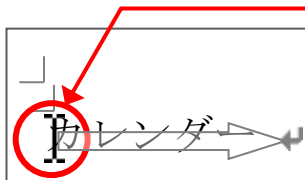
悪の十字架

ある早朝一人の老婆が、まだ降りているデパートのシャッターに向かって、あたかも、そのデパートに恨みでもあるかのごとく、叫んだ。

老婆「開くの十時か。」

STEP 2. 文字を太くする (太字)

1. 文字を選択しましょう



1 マウスポインタを1行目の「カレンダー」の前に移動し、「カレンダー」の文字をドラッグします。

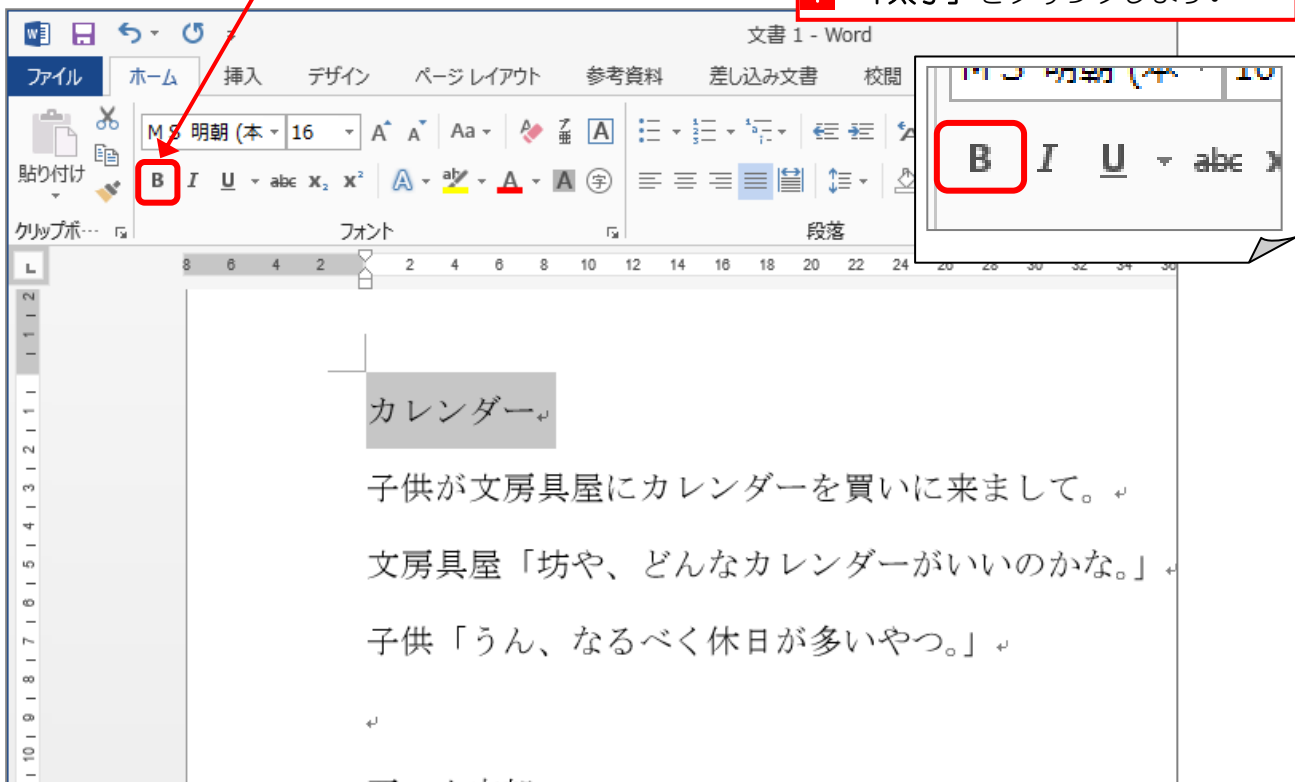
子供が文房具屋にカレンダーを買いに来まして。↵

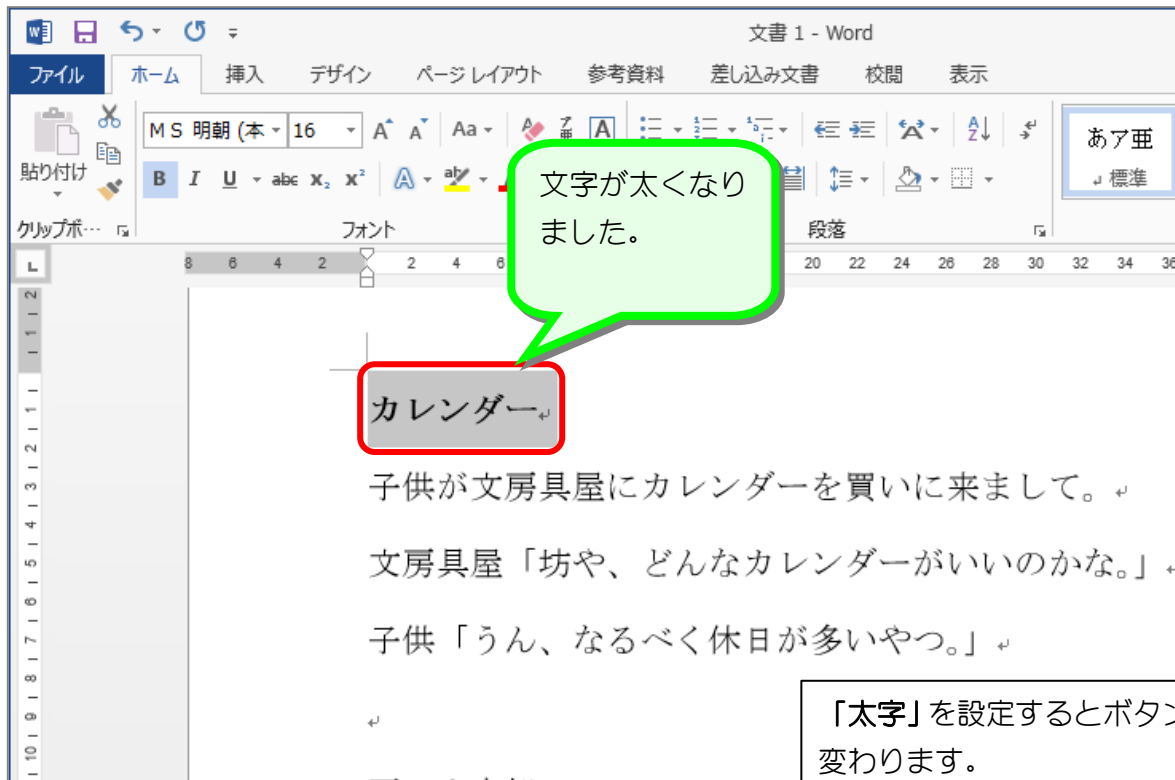
文房具屋「坊や、どんなカレンダーがいいのかな。」↵

子供「うん、なるべく休日が多いやつ。」↵

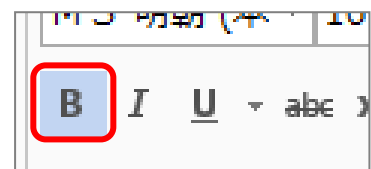
2. 太字にしましょう

1 「太字」をクリックします。





「太字」を設定するとボタンの色が変わります。



- 2 文書内の適当なところをクリックして選択を解除しましょう。

練習問題

- 次のように「悪の十字架」を太字にしましょう。

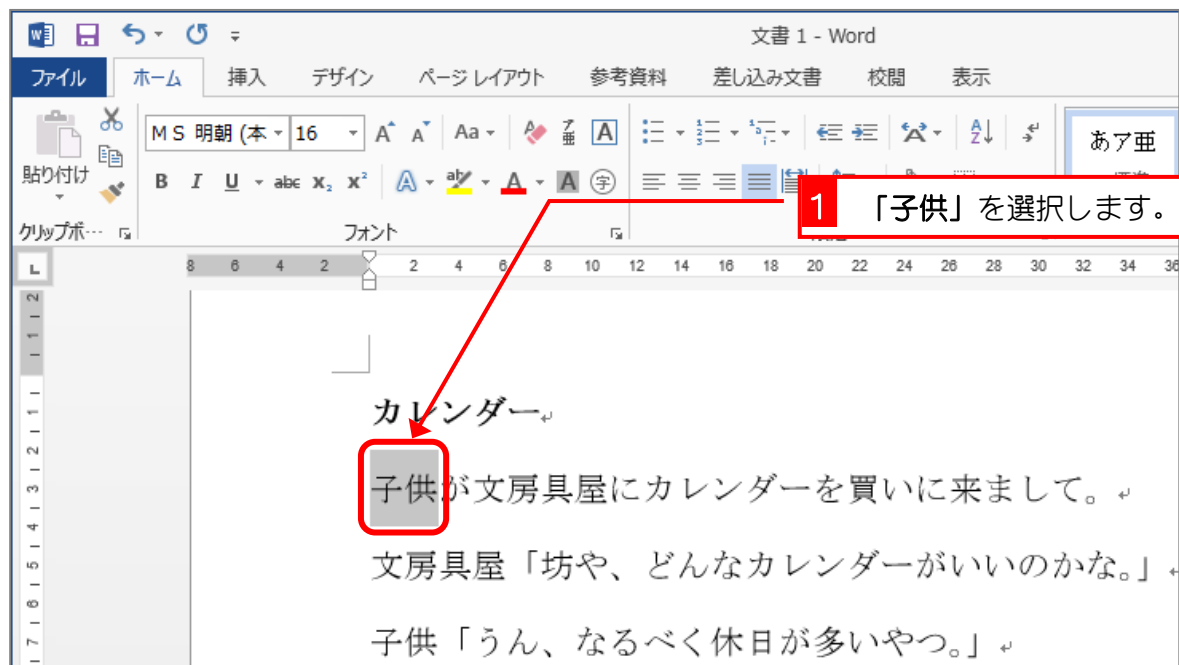
悪の十字架

ある早朝一人の老婆が、まだ降りているデパートのシャッターに向かって、あたかも、そのデパートに恨みでもあるかのごとく、叫んだ。

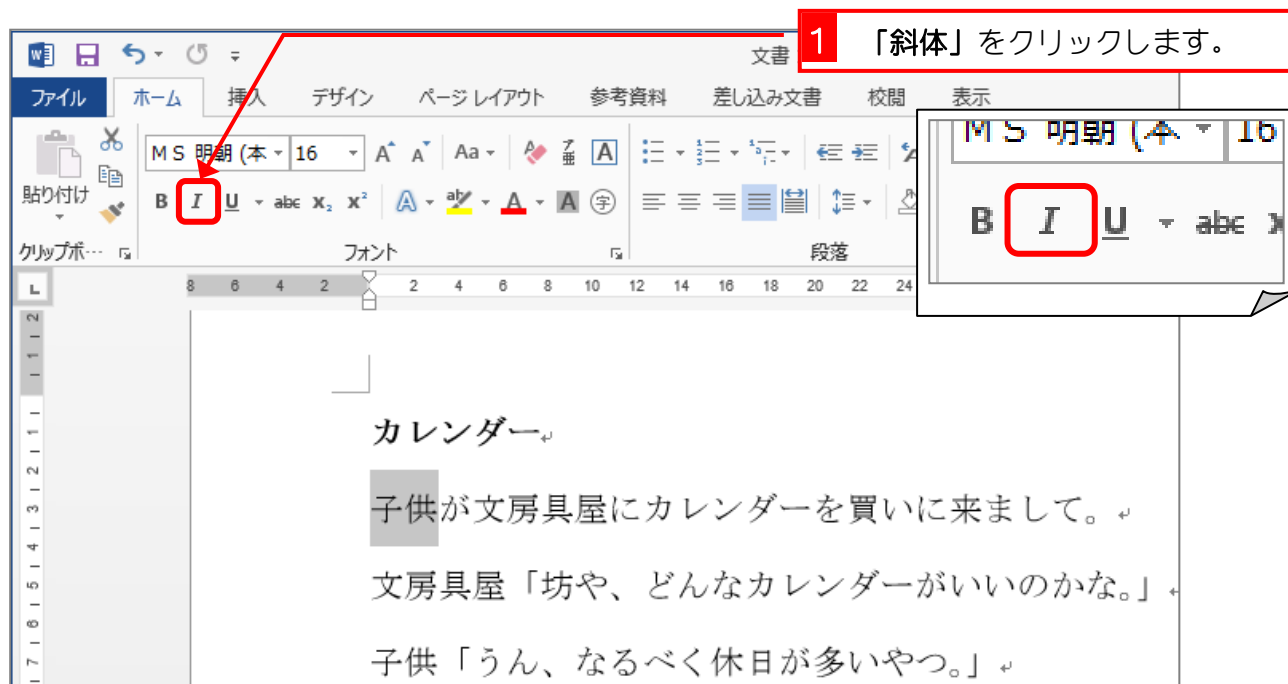
老婆「開くの十時か。」

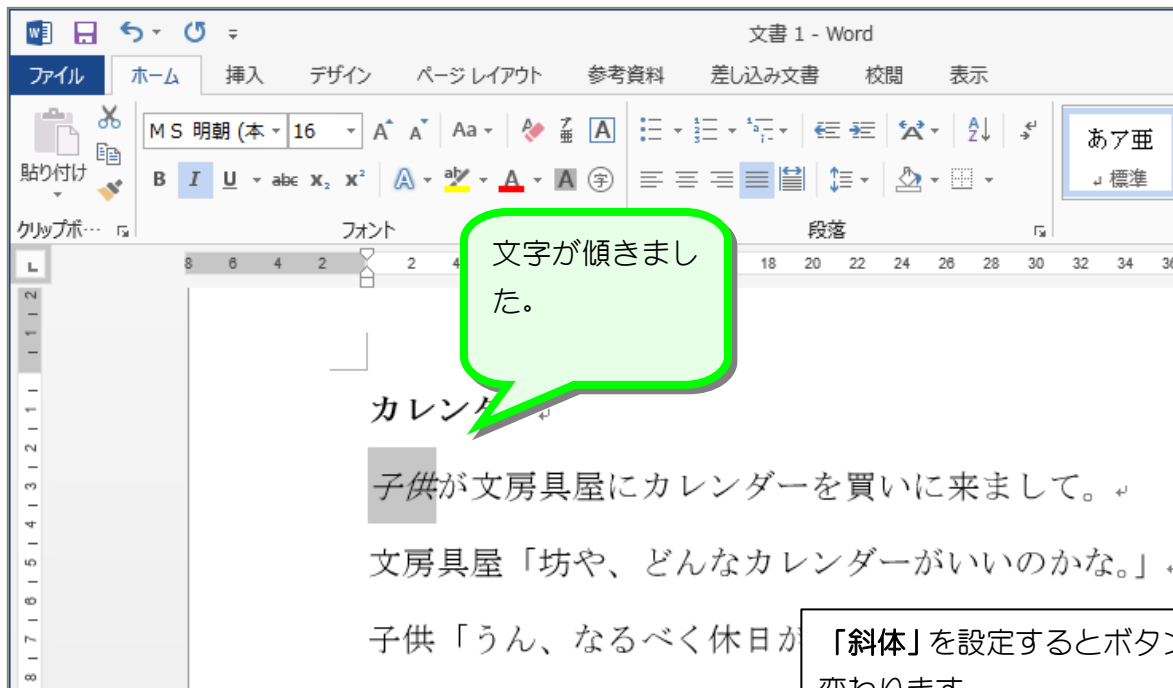
STEP 3. 文字を傾ける (斜体)

1. 文字を選択しましょう

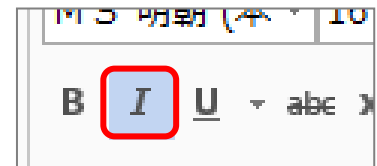


2. 斜体にしましょう





「斜体」を設定するとボタンの色が変わります。



2 文書内の適当なところをクリックして選択を解除しましょう。

練習問題

- 次のように「ある早朝」を斜体にしましょう。

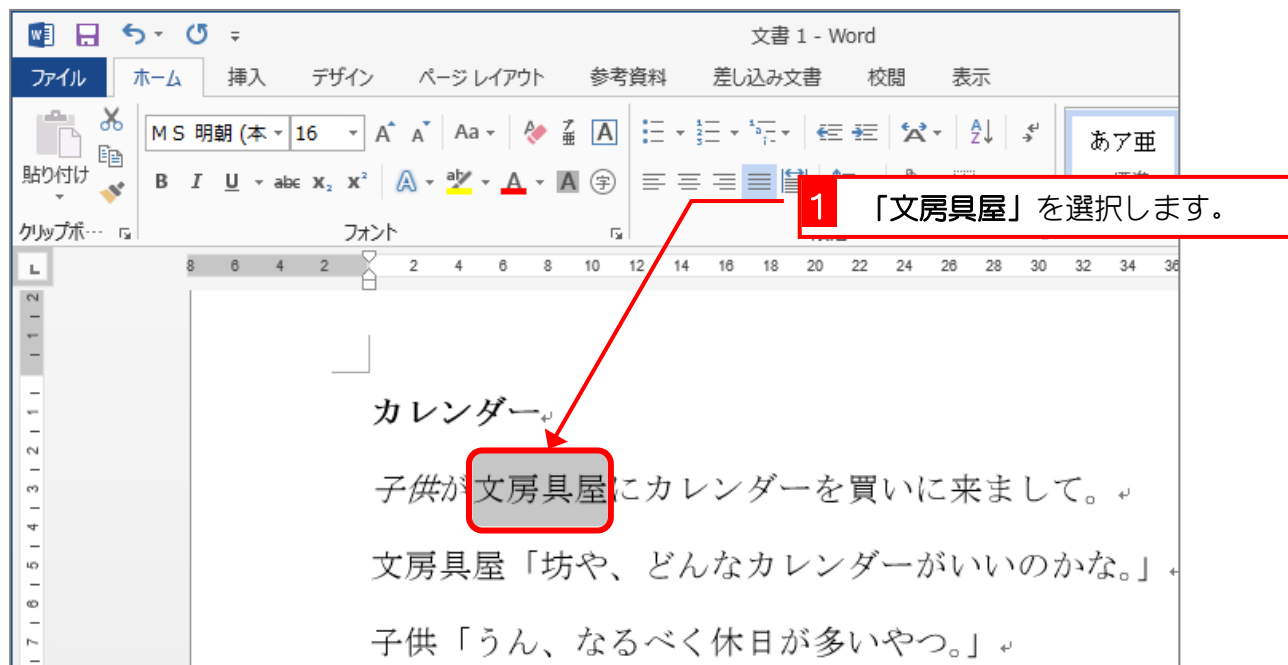
悪の十字架

ある早朝一人の老婆が、まだ降りているデパートのシャッターに向かって、あたかも、そのデパートに恨みでもあるかのごとく、叫んだ。

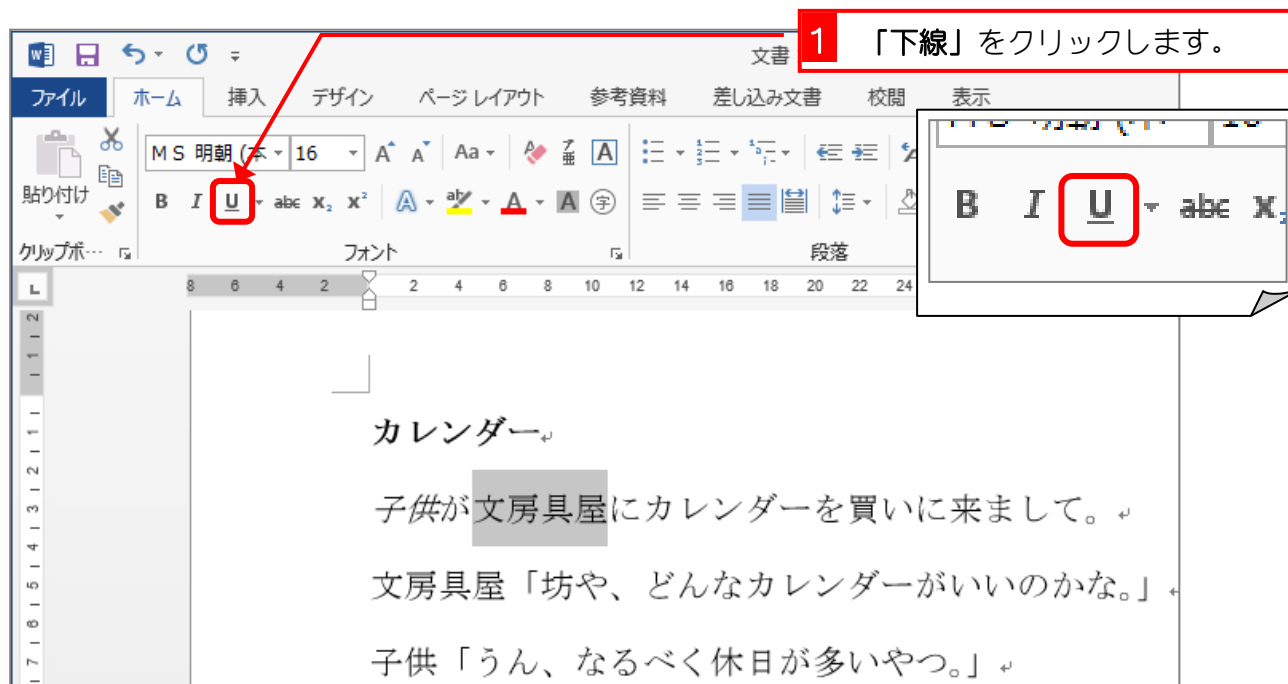
老婆「開くの十時か。」

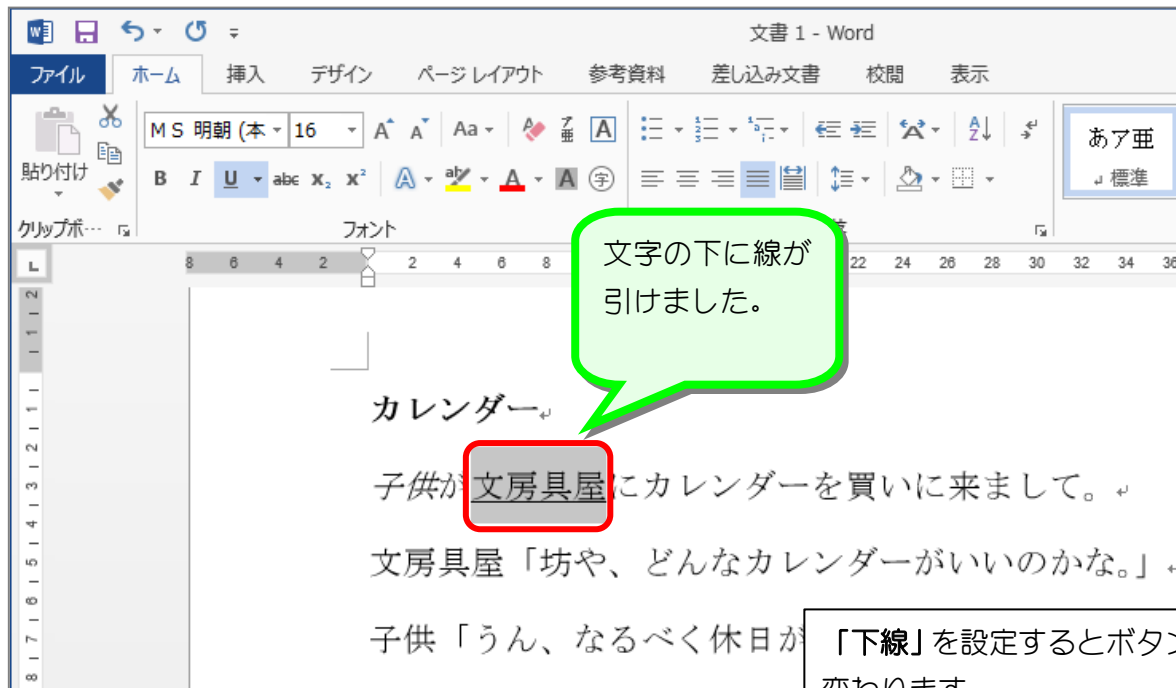
STEP 4. 文字の下に線を引く（下線）

1. 文字を選択しましょう



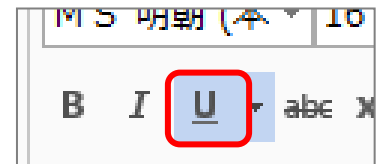
2. 下線を引きましょう





文字の下に線が
引けました。

「下線」を設定するとボタンの色が
変わります。



2 文書内の適当なところをクリック
して選択を解除しましょう。

練習問題

- 次のように「一人の老婆」に下線を引きましょう。

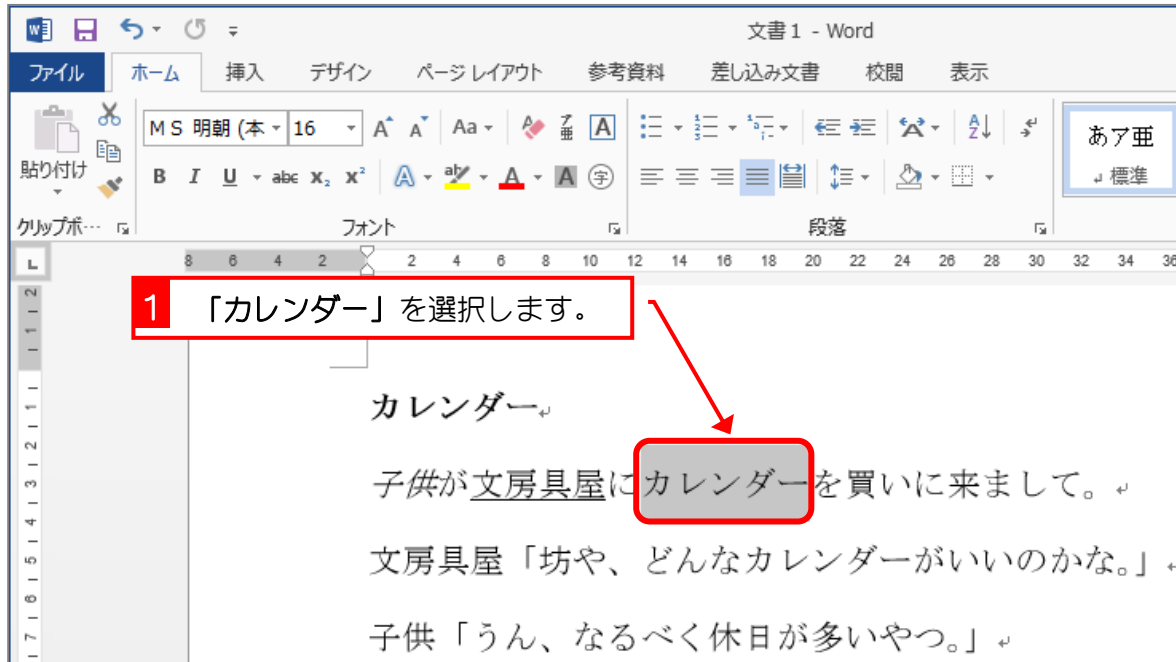
悪の十字架

ある早朝一人の老婆が、まだ降りているデパートのシャッター
に向かって、あたかも、そのデパートに恨みでもあるかの
ごとく、叫んだ。

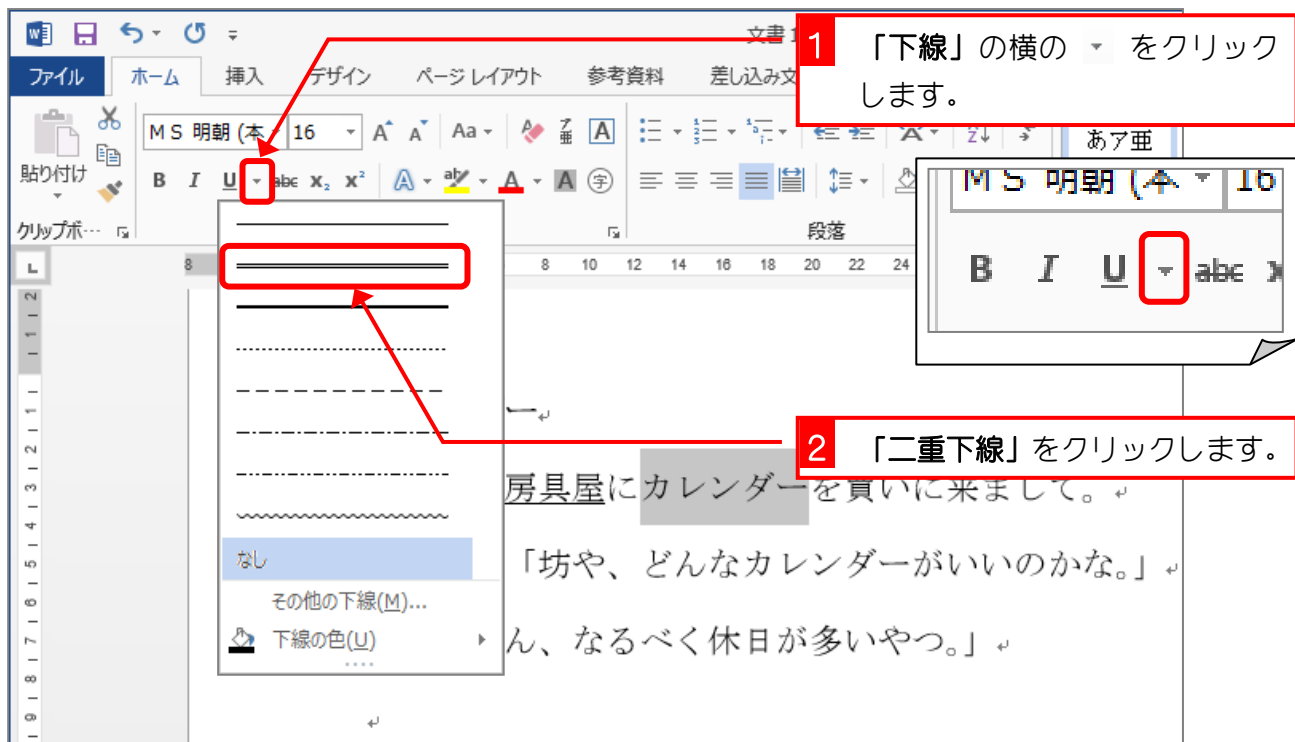
老婆「開くの十時か。」

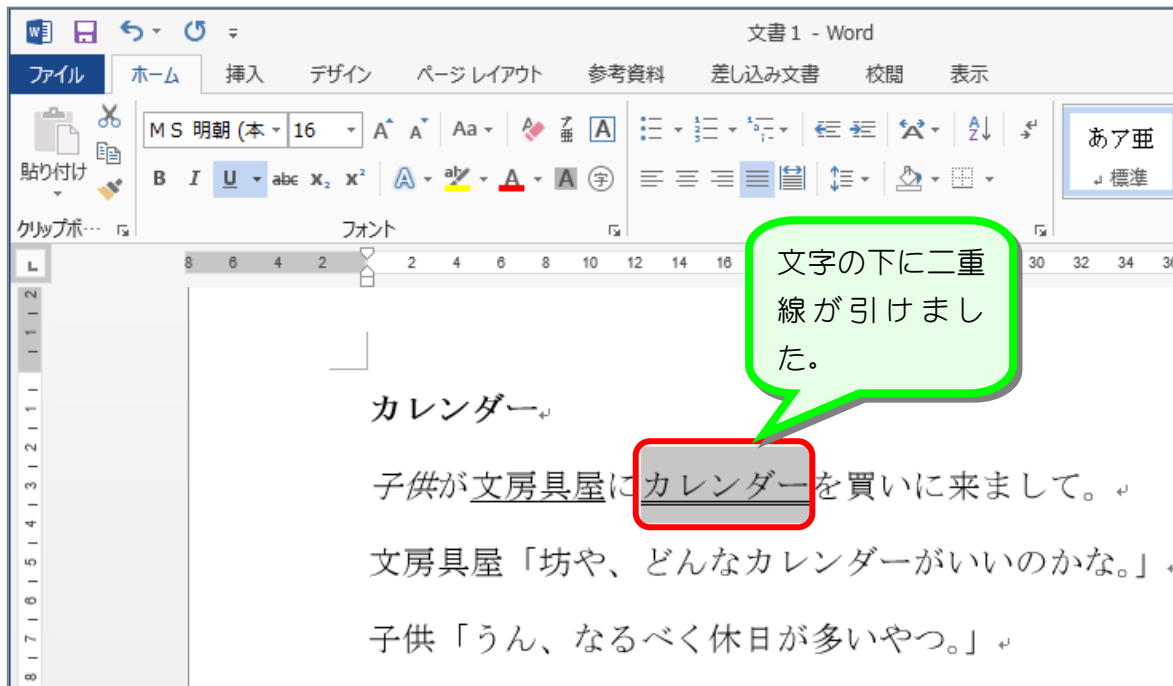
STEP 5. 文字の下に二重線を引く

1. 文字を選択しましょう



2. 二重下線を引きましょう





- 3 文書内の適当なところをクリックして選択を解除しましょう。

練習問題

- 次のように「まだ降りているデパート」に二重下線を引きましょう。

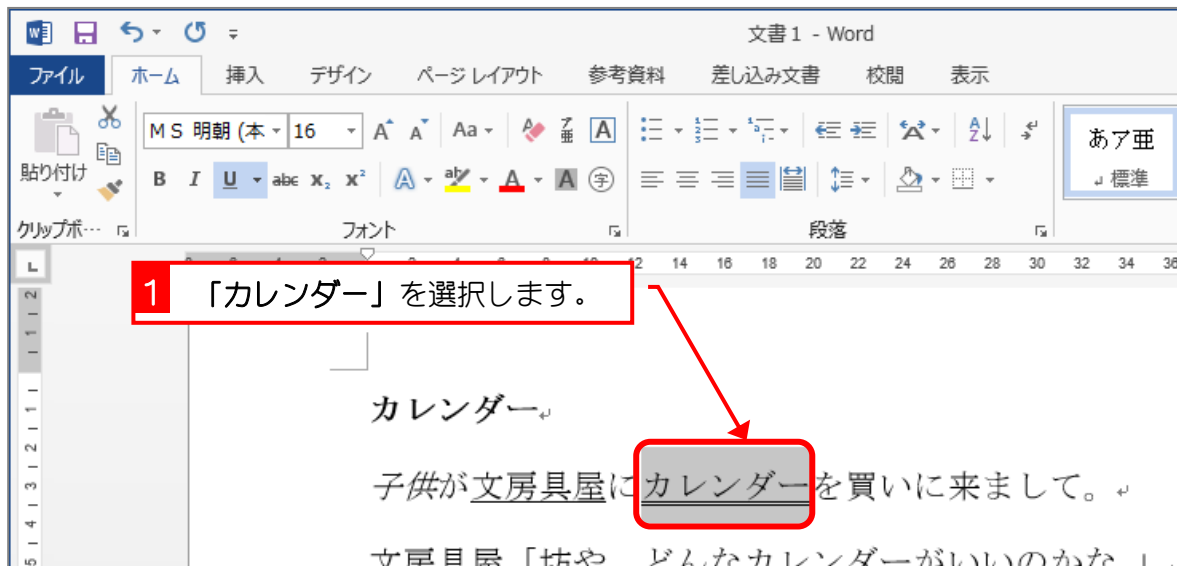
悪の十字架

ある早朝一人の老婆が、まだ降りているデパートのシャッターに向かって、あたかも、そのデパートに恨みでもあるかのごとく、叫んだ。

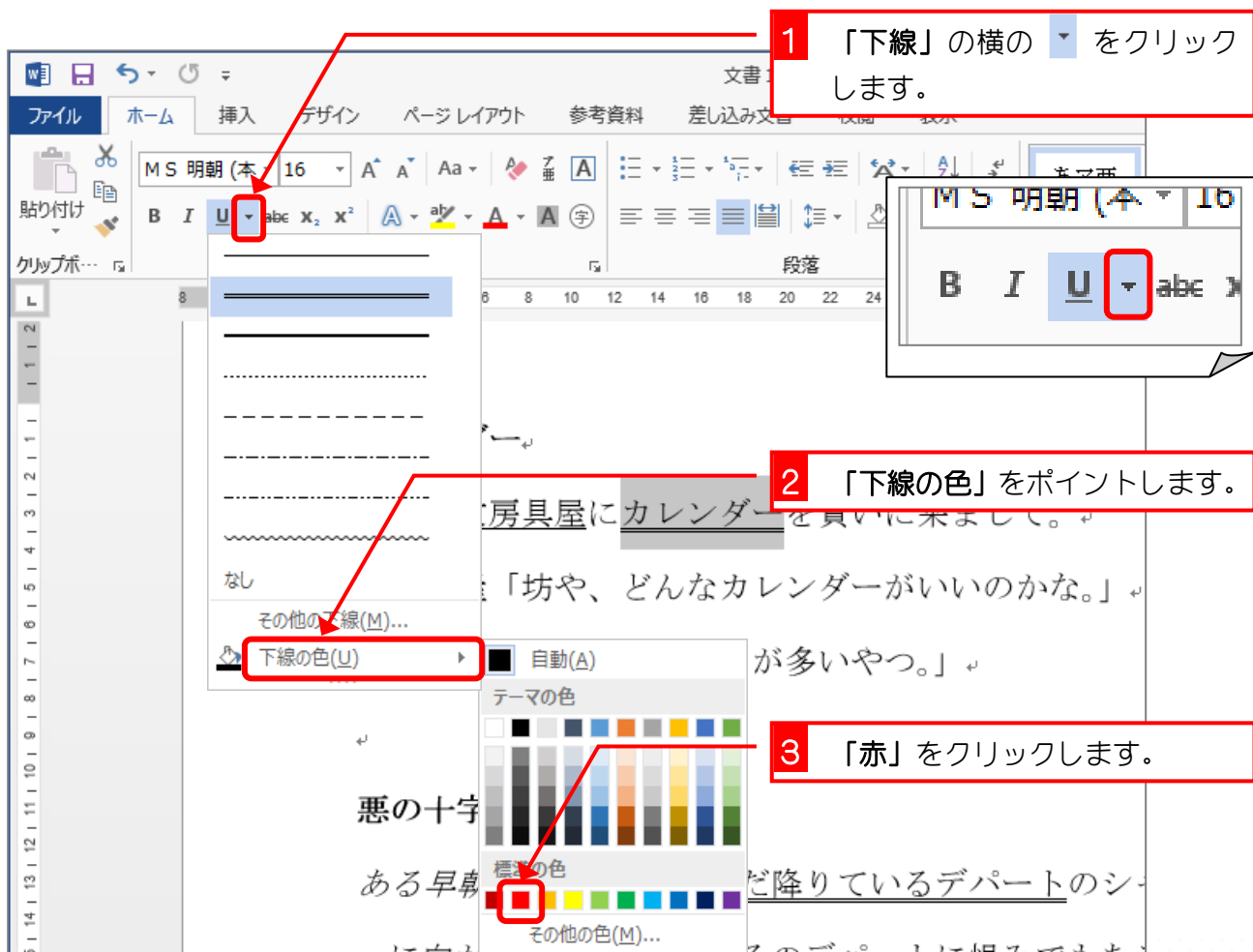
老婆「開くの十時か。」

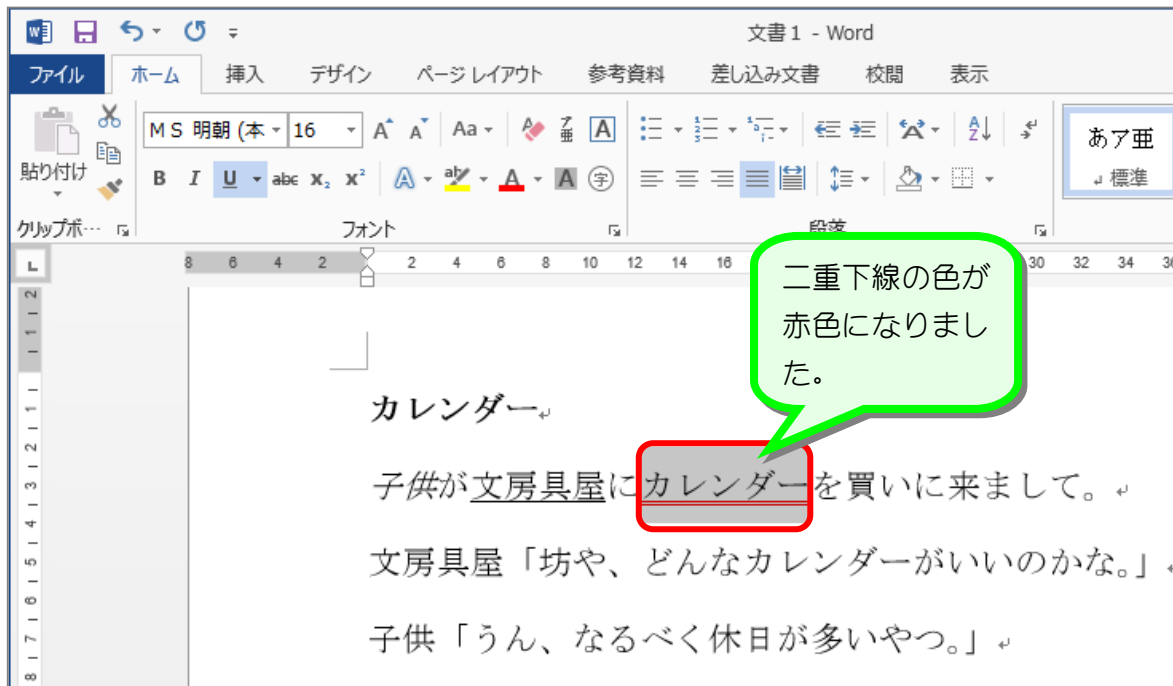
STEP 6. 下線の色を変更する

1. 文字を選択しましょう



2. 二重下線の色を赤色に変えましょう





- 4 文書内の適当なところをクリックして選択を解除しましょう。

練習問題

- 次のように「まだ降りているデパート」の二重下線を赤色にしましょう。

悪の十字架

ある早朝一人の老婆が、まだ降りているデパートのシャッターに向かって、あたかも、そのデパートに恨みでもあるかのごとく、叫んだ。

老婆「開くの十時か。」